

# 1 課

7月4日

## なぜあかしなのか



安息日午後 6月27日

### 暗唱聖句

これは、わたしたちの救主である神のみまえに良いことであり、また、みこころにかなうことである。神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。(1テモテ2:3、4、口語訳)

これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。(1テモテ2:3、4、新共同訳)

### 今週の聖句

ヤコブ5:19、20、ルカ15:6、ゼファニヤ3:17、ヨハネ7:37、38、  
1テモテ2:3、4、IIコリント5:14、15

### 今週のテーマ

どこにいる人にも神が切に望んでおられるのは、彼らが神の愛に応え、神の恵みを受け入れ、神の霊によってつくり変えられ、救われて神の国へ入ることです。私たちが救うこと以上に切なる願いを、神は持っておられません。神の愛は限りなく、その憐れみは計り知れず、その思いやりは終わりなく、その救いは尽きず、その力は無限です。犠牲を要求した異教の神々とは対照的に、私たちの神は究極の犠牲を払われました。私たちがどれほど救われたいと望んだとしても、神はそれ以上に私たちが救いたいと願っておられます。「これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」(1テモ2:3、4)。あなたや私を救うことが、神の心からの願いなのです。

あかしとは、すべてイエスに関するものです。あかしは、彼が私たちが救うためにどのようなことをなさり、私たちの人生をどう変えてくださったのかということです。また、彼の言葉のすばらしい真理に関するものであり、そのみ言葉は、彼の人柄と彼の品性の美しさを私たちに教えています。なぜあかしなのでしょう。イエスとともにあかしをするとき、私たちは、人々が彼の恵みによって救われ、彼の愛によってつくり変えられるのを見るというイエスの喜びを共に味わえるからです。

神は、どこにいる人々にも、ご自分を知る機会を日々お与えになります。神は聖霊を通して彼らの心に働きかけ、自然界の美しさや複雑さの中にご自分をあらわしておられます。宇宙の広大さ、秩序、調和は、計り知れない知恵と力をお持ちの無限の神を物語っています。神はご自分のもとへ私たちを引き寄せるために、私たちの人生の状況を整え、導いてくださるのです。

神は、聖霊の靈感、自然の美しさ、摂理の働きを通してご自分をあらわされますが、神の愛は、イエス・キリストの人生と働きの中に最もはっきり示されています。イエスをほかの人に伝えるとき、私たちは、彼らが救われる絶好の機会を提供しているのです。

**問1** ルカ 19：10 を読み、ヤコブ 5：19、20 と比べてください。ルカによる福音書は、イエスが地球に来られた目的について、どのようなことを教えていますか。失われた者を救うために働かれるキリストに、私たちはいかに協力したらよいのでしょうか。

ヤコブによれば、「罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から救い出(す)……ことになる」(ヤコ5:20) のです。ローマの信徒への手紙は、この考えをさらに広げています。1章、2章では、自然の中にあらわされた神を見てきた異邦人も、聖書の預言の中に啓示された神を受け入れてきたユダヤ人も、キリストなしには失われています。使徒パウロは、3章から5章で、ただ信仰による恵みを通して救いがもたらされることを明らかにし、6章から8章では、信者1人ひとりを義とする恵みが、いかに人を清める恵みでもあるかということの説明をしています。10章では、「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」(ロマ10:13) と述べ、次に、もし信じていなければ、だれも呼び求められないし、もし聞いたことがなければ、信じることはできないし、もしだれかが宣べ伝えなければ、聞くことはできない、と指摘しています(ロマ10:14、15)。私たちは、救済計画における神のつなぎ役であり、失われた人々に福音の栄光を届けるのです。

私たちが人々にあかしをするのは、彼らが救われる唯一の機会を与えるためではありません。絶好の機会を提供するためです。人類をあがなう神のご計画において、私たちの役割は何でしょうか。どれだけの人が、あなたの唇から福音を聞いたことがあるでしょうか。この点も考えてみてください。

だれかがあなたに、「きょうの調子はどうですか」とか、「きょうはすべてがうまくいっていますか」と尋ねてきたことがありますか。もしあなたがこういう質問を神に尋ねたらどうなるのでしょうか——「神様、きょうはいかがですか」。どんな答えが返ってくると思いますか。たぶんそれはこんな返事でしょう。

「きょうは極めて厳しかったよ。凍えて、おなかを空かして泣いている子どもたちがいっぱいいる難民キャンプを1000か所も見たからね。泣いてしまったよ。世界中の混み合う都市を歩き回り、路上生活者や貧しい人たちを見て、また涙。虐待されている女性や、性の奴隷に売られておびえている子どもたちに、心が痛むよ。戦争の傷跡も見たし、自然災害の破壊的な影響も見たし、体を弱らせる致命的な病気のつらい苦しみも見たしね……」

「でも神様、あなたを喜ばせるものが何かありませんか。あなたの心に喜びをもたらすものはありますか。あなたが歌を歌いたくなるようなことが何かないでしょうか」

**問2 ルカ15：6、7、9、10、22～24、32を読んでください。これらの物語は、どのように終わっていますか。これらの結末は、神についてどのようなことを教えていますか。**

失われたものが見つかる時、全天が喜びます。病気、災害、死であふれたこの世にあって、私たちは救いの「良い知らせ」を人々に伝えることで、神の心に喜びをもたらすことができます。キリストの愛を伝える最も大きな動機の一つは、あかしが神の心に喜びをもたらすことです。私たちがキリストの愛を明らかにするたびに、全天が歌うのです。

**問3 ゼファニヤ3：17を読んでください。私たちが、人を救う主の恵みを受け取るとき、主はどのような反応を示されますか。**

その場面を想像してみてください。あなたがあかしをした結果、いずれかの男女や、少年少女が、自分の個人的な救い主としてイエスを受け入れるのです。その時イエスは喜ばれます。全天が歓喜の歌声をあげ、私たちの力ある救い主は、その人のゆえに喜びの歌をもって楽しまれるのです。悲しいこの世にあって、あなたのあかしが神の心に喜びをもたらすと知ることほど、やりがいのあること、満足できることがあるのでしょうか。

死海は、地表で最も標高の低い場所です。海拔マイナス 430 メートルにあり、世界一低い海なのです。ヨルダン川はガリラヤ湖から流れ出し、ヨルダン渓谷の中をうねって進み、死海で行き止まりになります。

高温で乾燥した気候は、強烈な日光と砂漠の環境を伴っており、急速に水を蒸発させます。死海の塩分ミネラル濃度は 33.7 パーセントで、その水の中で生き残れる物はほとんどありません。魚も、植物も、そこにはいません。湖の底のほうに、微生物やバクテリアがいくらかいるだけです。

私たちのクリスチャン人生において、もし私たちに流れ込む神の恵みがほかの人へ流れ出さないとしたら、私たちはよどんだ状態になり、死海のように死んだも同然になってしまうでしょう。クリスチャンとして、私たちはそのような生き方をすべきではありません。

**問 4 ヨハネ 7 : 37、38、ルカ 6 : 38 を読んでください。死海のような体験とは対照的に、信じる者たちが生きた水の流れをキリストから受けるとき、どのような結果が自然に生じますか。**

「神は、罪人を救うのにわれわれの助けがなくても、目的を達することがおできになったのである。だがわれわれがキリストのような品性を発達させるためには、キリストの働きにあずからねばならない。キリストの喜びすなわちキリストの犠牲によってあがなわれた魂を見る喜びに入るためには、われわれは彼らをあがなうキリストの働きにあずからねばならない」（『希望への光』735 ページ、『各時代の希望』上巻 163 ページ）。

「勝利者になる者は、自分自身の殻から抜け出さねばならない。そして、この重要な作業を成し遂げる唯一の方法は、他者の救いに強い関心を持つことなのである」（『キリスト教育の基礎』207 ページ、英文）。

キリストが私たちの人生の中でしてくださったことを人々に伝えるとき、私たちは成長します。キリストによって与えられてきたものを考えるとき、私たちがそれらをほかの人に伝えることを妨げるのは、最も卑しい利己心以外にありません。一方で、もし私たちが自分の信仰を伝えないなら、私たちの霊的な生活は死海のようによどんでしまうでしょう。

ほかの人にあかしをし、ほかの人と祈り、ほかの人の必要を満たす、どのような経験をしたことがありますか。それらの経験は、あなたの信仰や、主とともに歩むあなたの人生に、どのような影響を及ぼしましたか。

キリストに忠実であるためには、彼のみ心を行う献身が求められます。キリストの命令に従うことが必要なのです。それによって、失われた者を救おうとするキリストの心に共感する心が与えられ、キリストが優先されるようになります。

**問5** Iテモテ2:3、4、IIペトロ3:9を読んでください。これらの聖句は、神の思いについて、神が優先されている何を教えていますか。

神は人を救うことに情熱を傾けておられます。神にとって、これ以上に大切なことはありません。「すべての人々が救われて真理を知るようになること」(Iテモ2:4)が、神の心からの願いなのです。神は、「ひとりでも滅びることを望まず、[しかし(英訳聖書に基づく)]すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」(IIペト3:9、新改訳)。『SDA聖書注解』はこの聖句について、次のような注釈を記しています——「望む」に相当するギリシア語は「ブーロマイ」で、『望む』とか『願う』といった心の傾向をあらわしている。続いてこの注解書は、「しかし」というささいな言葉に関して、鋭い見解を述べています——「しかし」に相当するギリシア語は「アッラ」であるが、ここでこの言葉が用いられているのは、「神のご性質に対する誤解、つまり神はだれかが滅びることを望んでおられるのかもしれないという考えと、神はすべての人が救われることを願っておられるという真実との違いを強調するため」(『SDA聖書注解』第7巻615ページ、英文)なのである、と。キリストは私たち1人ひとりに、主の愛、恵み、真理のあかし人として宣教に参加するよう命じておられますが、その命令は、すべての人に救われてほしいという主の望みから出たものなのです。

**問6** 使徒言行録13:47を読み、イザヤ49:6と比べてください。このメッセージは、当初だれに向けられたものでしたか。パウロはそれをどのように用いていますか。

旧約聖書の預言は、複数の人や事柄に当てはめられる場合があります。使徒パウロはここで、当初イスラエルと、預言的にメシアを指していた預言を取り上げて(イザ41:8、49:6、ルカ2:32参照)、新約聖書時代の教会に当てはめています。教会にとって、キリストの命令を無視したり、軽視したりすることは、教会が存在する目的を果たさず、預言によるこの世への召しに応じないことなのです。

私たちは今週、「なぜ、あかしなのか」という問いに答えることに焦点を合わせてきました。そして、私たちが自分の信仰を伝えるとき、この世に対する使命を神と協力して果たせる喜びを得られることを知りました。私たちが神の愛についてあかしすることで、救いの機会をより多く人々に与えることになります。なぜなら、彼らは神の恵みと真実をよりはっきり理解できるからです。

同時に、あかしをすることは、私たちが霊的に成長させる神の手段の一つです。キリストが私たちのためにしてくださったことを伝えず、人々に奉仕をしないと、純粋な霊的命が窒息してしまいます。

あかしをすることで、全人類が救われることを望んでおられる方の心と触れ合えます。あかしをすることは、神の命令に従うという応答です。きょうの研究では、あかしをする最大の動機について学びます。

**問7** IIコリント 5：14、15、18～20 を読んでください。パウロが福音のために試練、患難、困難、苦しみを味わった動機は何でしたか。どうすればこの同じ動機によって、キリストのための私たちの奉仕も促されるでしょうか。

使徒パウロの動機は愛でした。人には、ほかの理由ではしないことでも、愛のためならするということがあります。「キリストの愛がわたしたちを駆り立てている」（IIコリ 5：14）と、使徒が明言したとき、彼は永遠の真理を語っていたのです。「駆り立てる」という言葉は、「強いる、迫る、支配する、強く動機づける」といった意味を持ちます。キリストの愛は、パウロの行動を支配し、彼のあかしを動機づけていました。ひるむことのない目的と一途な心を持って、彼は救いの計画を地中海の隅々にまで伝えたのでした。

「真の愛が心に宿らなければならない。純粋なクリスチャンは主に対する深い愛に基づいて行動する。キリストに対する愛の根源から、兄弟に対する無私の関心が芽ばえる」（『希望への光——クリスチャン生活編』812 ページ）。

キリストが私たちのために払ってくださった大きな犠牲を心から自覚するとき、私たちは彼の愛に打ちのめされ、彼が私たちのためにしてくださったことをほかの人に伝えざるをえなくなるのです。

あらゆるもの（星雲、星々、天使の軍団、宇宙全体、他世界も）を創造された方が、私たちのために十字架で死んでくださいました。この驚くべき事実が、神への愛と、その愛を伝えたいという願いを、私たちの内に生み出さないことがあるでしょうか。

参考資料として、『患難から栄光へ』第1章「人類救済への神の計画」と『各時代の希望』第86章「行ってすべての国民に教えよ」を読んでください。

新約聖書時代の教会は、自身の存在目的がわからなくなるという危機に直面しました。エレン・G・ホワイトは、この危機を次のように描いています。

「エルサレムの教会をおそった迫害は、福音の働きに強い刺激を与える結果になった。エルサレムでのみことばの宣教は成功していたので、弟子たちには、全世界に出て行けとの救い主のご命令をなおざりにして、いつまでもそこにとどまる危険があった。悪に抵抗する力は、活動的な奉仕によって最も多く得られるということを忘れて、彼らは敵の攻撃からエルサレムの教会をかばうほど重要な仕事はないと思いはじめていた。彼らは新しく改心した人たちに福音を宣べさせる教育をすどころか、すでになし遂げられたことに、みんなで満足しているだけで終わってしまうような危険に陥っていた」（『希望への光』1395ページ、『患難から栄光へ』上巻109ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① 金曜日のエレン・G・ホワイトの引用文を、とりわけ最後の行を、注意して読んでください。今日でも、私たちはなぜ、起こりうる同様の危険を注意しなければならないのですか。宣教の難しい問題を前にして、なぜそのような態度はひどく（悲劇的なほどに）間違っているのでしょうか。
- ② 四福音書はなぜ同じような命令で終わっているのだと思いますか。マタイ 28：18～20、マルコ 16：15、16、ルカ 24：46～49、ヨハネ 20：21 を読んでください。これは紀元1世紀の信者たちにとって、どういう意味がありましたか。また現代の私たちにとっては、どのような意味があるべきですか。
- ③ 安息日学校のクラスで、火曜日の研究の最後の質問（あかしや奉仕をすることが霊的な成長に及ぼす影響についての質問）に対する答えについて話し合ってください。あなたが学んだことで、人助けに役立つことは何ですか。あなたが犯した間違いで、ほかの人が避けられるように助けてあげられることは何ですか。
- ④ 神が私たち1人ひとりを愛しておられるという驚くべき事実について、じっくり考えてみてください。このことは何を意味すると思いますか。たぶん全宇宙の中で最も重要なこの真理によって、あなたの生き方はどのような影響を受けるべきですか。